



五泉市地域おこし協力隊

— 五泉市の良いことつたえ隊 —

第183号:H31.4.3 五泉の良いことつたえ隊 青木です。

五泉市が誇る農産物シリーズをお伝えします。
農作業の様子と作物の成長を通して、
五泉市の移り変わる季節を見ていきたいと思ひます。



「米の専門、わくわく農場さん vol.2」

稲の苗作りがはじまりました！

3月20日。

冬場に大切に保管され休眠していた**種もみ**に、
春をお知らせ。**発芽の準備**です。

種もみをネットに入れ水に浸します。まだ冷たい水。

10～15日間、十分に浸した後、

次は32℃位のお湯で温めます。

手に取ってもらった**種もみはふっくら**していて、
芽の部分が白く見えてきていました。

ふわっと甘い、いい香りがします。

ここからまた3～4日後に種まきの予定。

並行して床土も準備、育苗箱をハウスに並べていきます。

ハウス1棟に850枚。これを7棟分。

気が遠くなりそう・・・。

それぞれの農家さんでそれぞれのやり方、工程があります。

わくわく農場さんは無加温栽培で苗を育てます。

あと数日後の種まきが楽しみです！





五泉市地域おこし協力隊

— 五泉市の良いことつたえ隊 —

第187号:H31.4.10五泉の良いことつたえ隊 青木です。

五泉市が誇る農産物シリーズ vol.3

農作業の様子と作物の成長を通して、
五泉市の移り変わる季節を見ていきたいと思ひます



「米の専門、わくわく農場さん」

鈴蒔きの取材です！

(五泉市では種もみを蒔くことを「すずまき」と言ひます。)

先日、水に浸されお湯でゆったりくつろいでいた種もみ。
ふっくらして、しっかり芽が出てきました。

白い髭のようなもの。

これが伸びてくると、根っこが出てくるそうです。

バケツにたっぷり入った種もみを育苗箱に蒔きます。

均等にです。

ちょっと体験。あつたか〜い種もみ。

育苗箱に渡した板の上を歩き左右均等に蒔くのですが、
思うようにいかず、まばらな感じ。結構難しい。

もう少し大きく手を振って蒔けばよかったのかな〜。

皆さん声を掛け合い手際がいい！

1ハウス、あつという間に終わった感じがしました。

そしてたっぷりシャワーをかけて。

あとはお天気次第。

コシヒカリの生育を待ちます。





五泉市地域おこし協力隊

— 五泉市の良いことつたえ隊 —

第188号:H31.4.12五泉の良いことつたえ隊 青木です。

五泉市が誇る農産物シリーズ vol.4

農作業の様子と作物の成長を通して、
五泉市の移り変わる季節を見ていきたいと思います



「ネギを育てる川口さん」

4月8日いよいよ**ネギの定植**です！

育苗箱を軽トラに積み込み出発！

畑の畝（うね）を整えて、しっかり根が張るように
肥料を撒きます。

苗をセットして植え込み。

vol.1で紹介したあの蜂の巣のような仕切りに

種を一粒ずつ植えて、15cm位に育ちました。

これが**専用の農機具**でいとも簡単に植え込まれていきます。

土を掘りつつ苗を置き土を被せるという**スゴ技**！

ちょっと体験。

苗の出だしを棒で固定。

農機具にある植え込みする部分を意識しながら
ゆっくりバックで進みます。

1箱分の植え込みが終わったら歩数を数えながら
苗を取りに行く。

しかも土の足りないところは足で被せながら。

その歩数分先に次の1箱を置いて無駄なく手順よく。

作業には何事も準備と段取りが大切ですね。

優しい風で心地いい天気。

菅名岳も清々しく映える日でした。





五泉市地域おこし協力隊

— 五泉市の良いことつたえ隊 —

第191号:H31.4.19五泉の良いことつたえ隊 青木です。

五泉市が誇る農産物シリーズ vol.6

農作業の様子と作物の成長を通して、
五泉市の移り変わる季節を見ていきたいと思います。



「チューリップの球根を作る、武藤さん①」

チューリップまつりが開催されている五泉市巢本地区。

阿賀野川と早出川に挟まれたところで、昔、川が起こした氾濫により砂地が作られ、その土壌がチューリップ栽培に適しているそう。昭和初期から栽培が始まり、組合も設立され、今ではチューリップ球根生産量が**全国トップクラスの産地**となっています。

広～い畑に絨毯のように植え付けされ、天気により表情が違って見えるチューリップ。晴れの日には特に見てみて～と言わんばかりに咲ほころぶ姿にうっとり。

今咲いているチューリップは昨年10月に植え付けされたもの。病気になりやすく連作できないので、稲、里芋などの作付けの循環の中で、3～5年の間隔で場所を変えているそうです。

チューリップまつりの開催場所が毎年変わっていることに気付いていましたか？（^^）

品種によりタイミングが異なりますが、見頃は4月中旬から末まで。今年もそれくらいです。

今は、品種により**花摘み**が開始されています。

以前何も知らなかった私は、え～もったいな～い！首だけ？と、思っていました。

なので、武藤さんから教わることはとても勉強になりました。

花摘みの作業について、

「チューリップの球根を作る、武藤さん」②へ続きます。





五泉市地域おこし協力隊

— 五泉市の良いことつたえ隊 —

第191号:H31.4.19五泉の良いことつたえ隊 青木です。

五泉市が誇る農産物シリーズ vol.6

農作業の様子と作物の成長を通して、
五泉市の移り変わる季節を見ていきたいと思います。



「チューリップの球根を作る、武藤さん ②」



前回の記事からの続きです

花摘みは、**検査に合格した畑**から。

しっかり咲いているか、病気感染していないか。
花卉球根組合と農家の方でしっかり検査されます。
農家さんは病気にならないようにと、
花が開花するととっても神経を使います。

それにしても、あの広大な畑の畝（うね）に隙間なく植え込み
されているチューリップ。**ひとつずつ花を摘み取る**作業は
相当な労力が必要なんだろうな～と想像します。

貴重な時間の中、摘み取りの様子を見せて頂きました。

花の茎に近いところをギュッと持って。

手首を返して、ポキッと。両手で。

花びらは葉っぱに落とさっぱなしにしない。

葉っぱが腐るからね。

しっかり球根を太らせるためには、
長い茎と葉っぱが大事。その栄養が球根に貯められます。

さすが！武藤さん早い！パッパッと進みます。

向かい合わせで一緒にスタートしましたが、
行ってらっしゃ～い！と言いたくなる感じ。

うっかり葉っぱに落とした花びらを

サッと取り除く武藤さん。何もかも早い。

背丈が高めのチューリップでも腰が痛くなってきます。

腰を伸ばし伸ばしやらないと進めません。

1列終わったらすごい達成感が。

「これで終わりじゃねっけね（^^）」

背後に続く畝。そーでした！

愉快的やり取りをしながら摘み取ります。

武藤さん、お義母さんと二人でこれぜ～んぶ、ですよ。

「いつでも待ってるよ～。」

はい、ありがとうございます。。



雨が降った今日は畑に入れないのかな～

チューリップ畑と武藤さん家族を思います。





五泉市地域おこし協力隊

— 五泉市の良いことつたえ隊 —

第191号:H31.4.19五泉の良いことつたえ隊 青木です。

五泉市が誇る農産物シリーズ vol.5



農作業の様子と作物の成長を通して、
五泉市の移り変わる季節を見ていきたいと思ひます

「さといも“帛乙女”を育てる川口さん」

さといも植えるよ～」
清瀬のさといも畑に集合の指令。
目印はお宮と川の土手と赤いトラクター・・・だけ。
少し不安を抱えながらも無事到着に拍手喝采！
こちらは阿賀野川脇にあり、
主に米やさといもが作付けされる地帯。
阿賀野川を挟んだ山と山の谷間からこの一帯に
吹き込む風は「だしの風」と言われ、
風速30mの強風が吹くことも。台風並みですね。
取材した日もかなり強めの風。



町内の農家さん達が、今が植え時とあちらこちらで
作業している姿を広く見学できました。
冬場ゆっくり休んだ田んぼを掘り起こし肥料を入れ、
さといも畑にします。
20kgの肥料を背負い広い畑に均等に撒く作業。
あ～出すぎました！すみません！
慣れるまで時間が必要。そして土に混ぜ込んで。
畝の幅はきちんと図り印をつけます。
人手があってもなくてもいかに効率よく
できるかが大事。
マルチ（ビニール）を掛けるのは機械。
キレイな畝に仕上げてくれます。



いよいよ種芋（さといも）の植え込みです。
便利な機械がありました。
操作する人は、種芋を指定の場所に入れながら前進。
下からチョコボールのキャラクターキョロちゃんの
「くちばし」に似た部品がマルチと土に穴を開け、
くちばしを開くと芋が転がり落ちる仕組み。
それを追って人の手で土を盛っていきます。
機械と呼吸を合わせリズムカルに進んで行きました。
ありがたいものです。



田植え前に終わらせないと。
農家さんにとってはとても忙しい時期です。



五泉市地域おこし協力隊

— 五泉市の良いことつたえ隊 —



第193号:H31.4.25 五泉の良いことつたえ隊 青木です。

清流の里 たわし隊の活動に参加しました。

「みんなでゴシゴシ、五泉への愛着が増します！」

日曜の朝10時。郷屋川の湧水井戸に集合。
おはようございま〜す。
挨拶と共に少しずつ人が増えていき総勢20名位に。
年3回4、7、11月に行われる活動で、
井戸周辺と、井戸・井戸の中の小石に発生した
藻とコケをお掃除します。
小学生から大人まで、市外からの参加者もみんなで
タワシを持ちゴシゴシ磨きます。
清流の里らしくキレイにしよう！
楽しく、無理しないでね〜なんて声掛あって。
1時間位でとっても美しくなりました。



そもそもこの活動は、一人の目線から始まりました。
定年退職後、地元にとっぷり浸かって暮らし
周りを見渡してみると、整備が行き届かず手を加え
なくてはならないところが見えてきた。
水をシンボルとしてきた五泉市がこんなはずでは・・・
その思いが仲間の応援もあり「清流の里たわし隊」を
立ち上げるきっかけになったそう。
結成から4年、12回目の開催となった今も
思いは変わらず、ボランティア活動の場が人と触れ合い、
まちを知り、活気あるまちづくりへの動きにしたい。
「たわし一つがまちと人を変えます。」
思いを行動に変えた、代表の和泉さんは仰いました。



五泉らしさや、こうでありたいという願いのようなもの。
活動は見せる場でもあり、
あらゆる方面への意識を高める場でもある。
いろいろな思いを巡らせ、さらに五泉市への愛着、
興味が高まりました。
もっともっと五泉市のことを知りたいです！

